

明治大学 学部別総評

★学部別傾向★

早稲田と類似する。法学部で法制関連問題，農学部で農業関連問題が時々出される以外は，問題内容（単元・テーマ・分野）に学部的な特徴はほとんど無い。大半が昨年・一昨年からのスライド出題であり，過去に出題された内容が7割程度を占める。ただ，問題形式・問題レベルや配点による世界史の重要性などに学部別の特徴がある。

長め（250字程度）の論述は政治経済学部だけになったので，他学部に関しては120字以内の短文であるため，論述対策は特に必要ないと思われる。

★年度別傾向★

早稲田と類似する。アフリカ・インド・東南アジア・東西交流史など同年に共通して頻出となるテーマ・単元・地域が3～5存在する。となればもちろんだが，同年の他学部の問題の入手が鍵となるだろう。全学部入試を含め，9学部あるので，最初の3学部にどんな単元・分野が出題されたかなどの内容を知るか知らないかで大きく結果は変わることは間違いない。どうしても明治という受験生は複数学部受験も念頭に置いておくと良からう。

前述した“その年に流行するモノ”は昨年・一昨年に単発で出題されたモノが危ない。よって，受験しない学部の過去問にも目を通しておくと“流行”を当てることができる可能性は高い。6カ年データの徹底研究で“流行”を当てることが可能である。

★配点表★

全学部	英100	国100	地歴100	2/5
情報コミュニケーション	英100	国100	地歴100	2/8
国際日本学部	英200	国150	地歴100	2/9
経営学部	英150	国100	地歴100	2/10
政治経済学部	英150	国100	地歴100	2/11
文学部	英100	国100	地歴100	2/13
法学部	英150	国100	地歴100	2/14
農学部	英100	国100	地歴100	2/15
商学部	英150	国100	地歴100	2/16

★全体的に…★

国際日本学部を除いては，英語とあと1教科で高得点を取れば合格が取れるようだ。英語はできる限り強くしたいが，あと1教科を得意科目にするように時間を掛けたい。世界史については，政治経済学部を除き，世界史巧者はかなりの高得点が狙える。地道に問題演習を沢山こなすこと，時代や地域のバランスをよく勉強することを心がけたい。文化史よりも戦後史の方が手こずる問題が多い。よって，文化史は過去問より洗い出し，狙って覚える方向で，戦後史は満遍なく学習するようにしたい。

A = センター基礎……用語集頻度7以上	
B = 標準～応用……	〃 4以上
C = やや難以上……	〃 3以下

全学部日程 A～C

★他学部と違い全問選択で，さらに早慶狙いの受験者のすべり止めになっていることもあり，受かりにくいことは承知しておきたい。レベルは年々UPしていて，戦後史は手ごわい。欧米：アジア＝1：1で時代のバランスはいい。明治大学入試では最初の試験になるので，その年の明治の流行を作っているように見えるので，全学部日程の問題に目を通してから他学部の入試に向かいたいところだ。よって，この全学部日程の対策としては，過去2～3年分のすべての学部の過去問から流行しそうなモノを探すことが一番であろう。配点を考えると世界史も合否のかなめになるだろう。

情報コミュニケーション学部 A～B

★教科書レベルの空所補充が約半分，用語の選択も非常に易しい。文章選択問題が3割程度あるものの，センターレベルなのでセンター対策で補える。戦後史・文化史は過去の他学部で出題された内容が広く浅く出題される。テーマ史も出題されないわけではないが，ハイレベルではないので通史学習をしっかりやれば合格ラインは取れる。3教科同配点であるため，世界史のウェートを高め，満点狙いにいけば，合格は近い。

国際日本学部 A～C

★なんと言っても，地歴の配点が英語の半分のたった100点ということが最大のポイント。国語も150点なので，世界史は差を付けられない程度にし，英国で点を稼ぐことが大切ということになるでしょう。

内容面では、その名の通り国際的な文化交流や近現代以降のグローバルな政治・社会が題材となる出題が多い。正誤よりも空所補充がメインで記述が7～8割。100字の簡単な論述は流れを書くモノなので対策は不要。時事的な宗教・民族問題はテーマ史でしっかりとマスターしておきたい。戦後史は固めておきたい。また、留学制度があるためか、英語で解答するモノも時々出題されている。

経営学部 A～B

★3割が空所補充，3割が用語選択，4割が文章正誤選択問題。文章正誤選択問題は選択文が短く，標準レベルなので，センター対策レベルの正誤対策で十分であろう。一問一答重視は明らかで，戦後史は頻出ではないが，出題されると意外に細かいので注意は必要。文化史（文字・宗教・暦の歴史も含む）は頻出だが易しい。欧米史：東洋史＝1：1，時代的には全時代をカバー，全体的に出題バランスがいい。今まで経営学部で出題されていない他学部出題の範囲を狙え！

政治経済学部 A～C（論述はB）

★古代～近代：近現代＝欧米：アジア＝1：1，3割程度ある文章正誤選択問題はやや難，センターレベル以上の正誤対策を行う必要があるが良問なので巧者は高得点を狙える。合否の分かれ目になることは間違いない。記述は教科書レベル。だが，辺境地域などのテーマ史や戦後史はやや難が多いので注意したい。配点20点の論述（200字前後）は，ここを第1・2志望にしているならばある程度は対策が必要になる。

文学部 A～B（文化史のみB～C）

★欧米：アジア＝1：1，全時代全地域が満遍なく出題されるのであまり絞れない。文化史は多く，戦後史が少ないことが特徴である。過去の他学部で出題された文化史が多いが用語のレベルや出題のされ方がやや難。選択：記述＝1：1で選択の半分が明治特有の文章選択問題。決して難しくはないので慌てずに間違いを見つける勉強をしよう。文化史以外は一問一答Levelで十分に対応できる。また，出題地域や時代は隔年又は2年間隔で変化するようなので，6カ年データを確実にチェックしたい。

法学部 A～C（戦後史のみB～C）

★古代～近代：近現代～戦後＝1：1の2問ずつ。欧米：アジア＝1：1の2問ずつ。基本はアジアの1問は中国史かその周辺地域史。非常にバランスが良いので，地域や時代を狙い撃ちするのは危ない。ただ，欧米は大航海・ルネサンス以降が比較的多く出題されるので重点的に勉強するのは良い。

記述問題：選択問題＝1：1で選択問題の半分は文章正誤問題であるが，明治特有は他学部と同じで，用語の間違いを見つける力を付ければ良い。最近，偏差値が上がってきている法学部ならではのハイレベルな戦後史は巧者にとっては点差を付けるチャンスとなる。

農学部 B～C

★欧米：アジア＝1：1，時代・地域的に見てもバランスが良い出題，広く浅く戦後史（易しい）まで。しかし，近年では7～8割が文章正誤問題となった。量をこなして備えよう。土地制度などの農業経済や農業関連文化史又は，社会経済史は必須であろう。農学部の過去問5～6年分はしっかりやっておけ。

商学部 A～B

★バランスのよい出題方法で実力が出る。記述・選択が半分ずつで，短文論述（100字前後）もある。選択問題の3割が文章正誤問題だが，短文選択なので用語チェックで答えは出る。センターレベルの正誤対策は必要。出題地域・時代が浅くて広い，文化史も戦後史も大量ではないが毎年出る。まさに広く浅くが基本！配点15点の論述は用語の説明が中心。よって用語集の熟読で十分対応できる。